

平成31年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立嘉瀬小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成31年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

教科に関する調査 〔国語、算数〕
<ul style="list-style-type: none">・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生(中学3年生)が対象であり、教科は国語と算数(数学)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

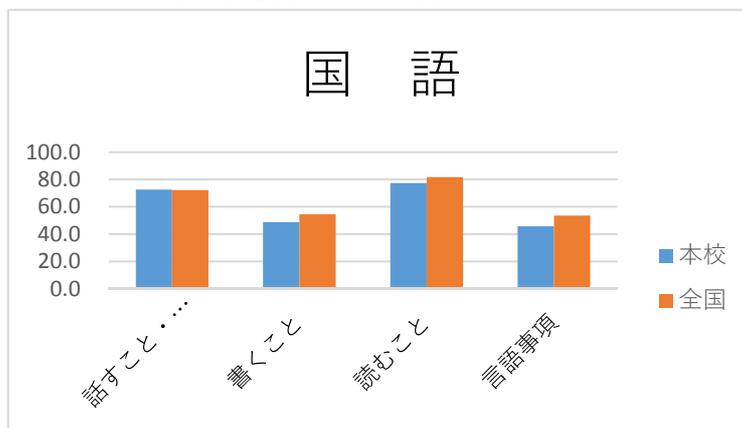
■調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果

「話すこと・聞くこと」では全国と同じレベルにあったが、他は国平均を下回った。特に「書くこと」の領域において、相手にわかりやすく伝える記述の工夫について課題があった。

全国及び佐賀県の領域別正答率との比較



(2) 課題

話す・聞く

- ・話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をしたり、目的に応じて、質問を工夫したりする問題に課題があった。授業等で自分が聞きたいことを明確にし、そのためにどのような質問をしたらよいか考えさせるような指導が必要である。

書くこと

- ・情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える問題に課題があった。自分が伝えたい情報があるときは、相手にどのような目的で伝えようとして書くのかを明確にし、その上でどのように書くと相手に伝わりやすいかなどの適切な記述の仕方を考えて書かせる必要がある。

読むこと

- ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく読む問題の正答率が低かった。必要な情報を明確にした上で、文章に書かれている話題や筆者の考えとその理由、構成などに注意しながら、表現に即して重要な点を的確に押さえて読み進めていくような指導をする必要がある。

言語事項

- ・言語事項については、漢字の読み書きや慣用句の意味理解、文のつながりや接続語の項目では正答率は高かったが、同音異義語の使い分け、常体や敬体の変換などに課題があった。スキルタイム等を利用して言葉についての基礎基本を定着させる取り組みの必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 朝の「読書タイム」、読書ボランティアによる「読み聞かせ」や「必読図書認定賞」(学年に応じた読破数の授与)、司書や図書委員会による本の紹介など、児童を読書へ誘う活動を継続して行っています。また、朝のスキルタイムで「主語、述語、修飾語」や「接続語」、同音異義語などの言語事項に関する問題に取り組みます。
- 授業では、「学び合いの時間」を設定し、友だちに自分の意見を説明し合うことで言葉の力を高め、学習を深めています。また、総合的な学習の時間に国語科で培った力を発揮する機会を設定することで、教科と実生活を関連づけ、意欲をもって主体的に学習に取り組む力の育成を目指しています。

【家庭では】

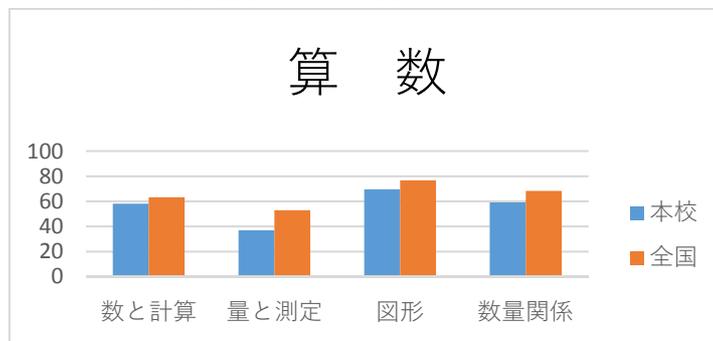
- 国語の力は、一朝一夕に身につくものではありません。日常的に、継続的に、楽しみながら取り組むことが大切です。話題を作って家庭での会話を豊かにし、素読タイムの暗唱や音読を聞いて、一言感想を言ってあげたり、一緒に空間で読書をしたり(家読)することが児童の意欲にもつながります。

2 算 数

(1) 結 果

全体的に、全国平均を下回った。特に「量と測定」領域に課題が見られた。選択式の正答率が高いが、記述式は低かった。問題解決のために伴って変化する2つの数量を見出したり、複数の情報から必要な数量を選択して立式したりすることに課題があった。

全国及び佐賀県の領域別正答率との比較



(2) 課 題

数と計算

- ・四則の混同した式を計算することができていない。単位あたり量の問題と合わせて、小数の除法を繰り返し練習する必要がある。スキルタイム等を利用し、四則計算の定着のために反復練習を行う必要がある。

量と測定

- ・示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明をする問題や資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述する問題に課題があった。日頃の授業で自分の考えを図や式と関連させ、記述による説明をさせる必要がある。

図 形

- ・基本的な平面図形については理解できているが、二つの合同な図形を組み合わせることができる図解を考えたり、示された面積を求める式を図形と関連づけて説明したりする問題に課題があった。単純に公式や性質を覚えるのではなく、構成要素や性質を基に、事柄が成り立つことを説明できるようにする必要がある。

数量関係

- ・複数の資料の特徴や傾向を関連付けることや問題解決のために伴って変化する2つの数量を見出したり、複数の情報から必要な数量を選択して立式したりする問題に課題があった。日頃の授業で、条件に応じた情報選択の機会を与えたり、複数の観点から情報を読み取らせたりする課題に取り組ませる必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 算数科の基礎・基本となる四則計算の力が定着するよう反復練習を行うとともに、単元ごとの学習内容の確実な習熟を目指して、学習の後に適応問題を行い、つまづいている子への早めの対応を心がけています。
- 問題の見通しを立てさせ、自分で考えた解決の方法をグループや全体で交流するなど、主体的な学びを通して思考力の向上を図っています。さらに、少人数やTTなどの学習形態を取り入れ、児童の理解度に応じた指導を行っています。

【家庭では】

- 基礎・基本の定着には、反復学習が必要です。家庭学習の中でたくさんの称賛や励ましを送り、意欲を高めてください。
- 算数好きにするには、生活と関連づけて、算数科の学習が役に立つ体験をすることが大切です。例えば、買い物のときに、見積もりや割合を考えさせたり、グラフや表から情報を得る経験を仕組んだりするなど、日常的に学習した内容を生かせる体験をさせてください。

■調査結果及び考察

3 生活習慣や学習習慣に関する調査（一部抜粋）

（1）結果

《児童の特徴について》

調査項目	全国比	本校割合	全国割合
自分には、よいところはあると思いますか。 (どちらかといえばを含む)	↓	71.4%	81.2%
将来の夢や目標を持っている。(どちらかといえばを含む)	↑	92.9%	83.8%
人の役に立つ人間になりたい。(どちらかといえばを含む)	↑	96.4%	95.2%
学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことはありますか。(どちらかといえばを含む)	↑	89.3%	84.1%

「自分にはよいところがある。」は、全国比を下回った。しかし、「将来の夢や目標を持っている。」や「人の役に立つ人間になりたい」「学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことはありますか。」は多くの児童が肯定的に答えた。本校が地域と共に取り組んできた、児童一人一人に出番・役割を与え承認の場面を作ってきたことが結果につながっている。今後も、児童一人ひとりの自己肯定感を高めるための取り組みを引き続き行う必要がある。

《生活習慣のようす》

調査項目	全国比	本校割合	全国割合
毎日決まった時間に起きる。(どちらかといえばを含む)	↓	82.2%	91.6%
毎日決まった時間に寝る。(どちらかといえばを含む)	↓	67.8%	81.4%
朝食を毎日食べる。(どちらかといえばを含む)	↑	96.4%	95.3%
平日読書を30分以上する。	↓	39.2%	39.8%
平日読書は全くしない～10分未満。	↑	7.1%	18.7%

朝食については、毎日食べている児童が定着しており、全国より高かった。毎日同じ時刻に寝起きしている児童の割合が全国比よりも低い結果となっている。早寝早起きの家庭への啓発が必要である。また、30分以上読書をする児童の割合は全国に比べてやや低いものの、全く読書をしていない児童は少なかった。

《家庭学習のようす》

調査項目	全国比	本校割合	全国割合
家で、自分で計画を立てて勉強をしている。(どちらかといえばを含む)	—	71.4%	71.5%
普段、1時間以上勉強をしている。	↓	57.1%	66.1%

家庭学習の様子を見てみると、昨年度に比べ、平日、1時間以上勉強をしている児童や自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が増えてきた。しかし、1時間以上勉強している児童の割合は全国比を下回る結果になった。宿題の内容を工夫していく必要がある。

（2）学力向上のための取り組み

【学校では】

○毎日、「音読」「漢字の書き取り」「どきプリやドリル」を基本に宿題を出します。自主学習（自学）については、高学年で取り組んでいます。

○朝の時間を使って、スキル学習（計算や言葉の習熟）や素読タイムでの音読、図書館イベント（嘉瀬っこ本棚など）等読書の推奨に取り組んでいます。昨年度の貸出冊数を上回るペースで読書量が増えています。

（昨年度約3万8千冊に対し今年度10月中旬で約2万5千冊、）

【家庭では】

○児童が、何事にも意欲的に取り組むためには、規則正しい生活習慣を身につけさせることがとても大切です。また、自分で学習に取り組む習慣が身につくまでは、目の届く範囲で、家庭学習に取り組ませることも大切です。良い習慣づけを学校と連携して行うため、宿題や連絡帳にサインをしてください。

県から家庭学習の手引きが配られています。それを参考にされながら、宿題プラス1を手始めに主体的に学習できるようにお子様への働きかけをお願いいたします。